



厚労省と懇談する保団連役員ら (左奥列)

「女性医師等就労支援事業」 新年度概算要求で厚労省と懇談

保団連女性部と勤務医
委員会は東京女子医科大
学の関係者らとともに10
月19日、女性医師等就労
支援事業など女性医師の
就労環境改善に関する2
011年度予算の執行状
況と2012年度概算要
求の内容について懇談を
行った。

懇談には、板井八重子
保団連女性部長、斉藤み
ち子同担当理事、長澤雅
人東京女子医大男女共同
参画局事務長、
日本女性外科医
会から富澤康子
氏が参加し
た。

今回の懇談
は、女性部が2
011年1月か
ら2月に47都道
府県を対象に実
施した「女性医
師等就労支援事
業実態調査」結
果をもとに、来
年度予算等に反
映していくこと
を中心に実施し
た。

冒頭、厚労省の各担当
者から女性医師等就労支
援事業、保育サービシリ
用への支援など8項目に
わたって説明が行われ意
見交換を行った。特に、
医師会に委託事業として
実施している「女性医師
支援センター事業」は2
012年度概算要求で、
1億7500万円と増額
要求が出されているもの
の、女性医師等就労支援
事業、病院内保育所運営事
業については、補助金の統
合化により、事業ごとの執
行状況や予算額が明示さ
れない編成となっている
ことが明らかとなった。

懇談に初めて参加した
富澤氏からは、予算化さ
れた事業内容が教授など
管理者に周知されていな
いことを指摘した。特に、
若い女性医師が働き続け
るための施策が重要であ
り、出産できる時期にこ
そ支援強化が急務である
と強調した。

板井氏からは、病院内
保育所運営事業など個々
の予算が現場にどのよう
に届き、活用されている
かが重要であるとして、
予算編成上の問題点を指
した。

板井氏からは、病院内
保育所運営事業など個々
の予算が現場にどのよう
に届き、活用されている
かが重要であるとして、
予算編成上の問題点を指
した。

摘すると同時に事業ごと
の実施状況を明らかにす
るよう求めた。また、長
澤氏からは「短時間正規
雇用事業」は女性医師の
多様な働き方を支援して
いく上で有用な事業にも
かわらず、2009年
度限りの事業となったこ
とに対し、「正直に言って
残念だ」と述べ事業の復
活を求めた。

同事業は2009年度
予算で予算化されたもの
の、勤務医負担軽減策とし
て2010年度診療報酬
改定に盛り込まれ廃止さ
れたもの。関連して、板井
氏から同事業の進捗状況
など実態把握と公表を求
めた。

予算編成上の問題点を指
した。